2015年11月13日／神戸新聞

防犯灯３３５基どこに消えた　架空申請？無断撤去？　西宮

　兵庫県西宮市が市内の防犯灯を現地調査したところ、登録された約２万１千基のうち３３５基が存在していないことが１２日、神戸新聞社の取材で分かった。防犯灯は市が補助金を支給し、地域の防犯協会が設置と維持管理を担当する。市は理由について防犯協会に調査を要請する一方、同協会に３３５基分の補助金返還（設置費用除く）を求める方針を固めた。（前川茂之）

　市地域活動支援課によると、市内で登録されていた防犯灯は２万１１０４基。６月から実地調査したところ、確認できたのは２万７６９基で、３３５基は登録された場所になかった。２０００年に全灯調査した際は登録件数と設置箇所にずれはなかったという。

　なぜ、あるはずの防犯灯が“消えた”のか。同課によると、可能性として、（１）道路工事などで一時的に撤去後、取り付けを忘れた（２）撤去の報告漏れがあった（３）第三者が無断で撤去（４）設置申請自体が架空だった－がある。

　特に問題なのは（４）の事例で、同市は設置時の費用に加え、維持費として防犯灯１基当たり年間約３４００円（２０ワットの場合）の電気代と６００円の修繕費を西宮、甲子園の両防犯協会に支給。過去には設置の際に最大１０万円の補助金が支給されていたこともある。申請時は設置工事の見積書と領収書を添えるだけでよく、市職員の立ち会いや完成写真の添付などは義務付けられていない。

　同市は３３５基を管理する両協会の４５支部に再調査を指示。支給済みの維持管理費については、期間は未定だが、過去にさかのぼって返還を求めていく。

　**この問題を追及している同市議会の渋谷祐介議員は「不正な補助金受給があったのではないか」と指摘する。**

　防犯灯の補助金をめぐっては、１２年に西宮防犯協会の１１支部で約３３０万円の不適正な運用が発覚し、市は適正な会計処理を指導。市は１６年度からの防犯灯の直営化に向け、全灯調査をしていた。

　一方、神戸市も１１年度に全灯調査を実施。自治会など地域団体に補助金を支給した１万７５１６基のうち、１４３基が登録と異なる状態だった。

　内訳は、現地に存在しない（８３基）▽市が設置したにもかかわらず地域団体による設置と登録（５５基）▽重複申請（３基）－などで、維持管理費などの返還は求めていない。

　【防犯灯への新設補助金】　西宮市によると、防犯灯の設置と維持管理に関わる補助金は年間約９５００万円。新設費用は機種により異なるが１万～１２万円程度とされる。同市では、新設に伴う補助金を１基当たり７千～１０万円支給していたが、今年４月から支給額を改定、７千～３万９千円とした。廃止（撤去）する際も５千～１万円の補助金が支給される。